

演題番号：D17

## 麻酔下にてIohexol (IOX) 投与後アナフィラキシーを呈したミニチュア・ダックスフンドの1例

○森下正隆, 宇根 智, 川田 睦

ネオベッツVRセンター 大阪市

1. はじめに：当院では年間約1600症例の造影CT検査を実施しており、造影剤投与後に過敏反応を呈した症例もいる。今回Iohexol (IOX) 投与直後にアナフィラキシーを呈した症例を報告する。

2. 材料および方法：症例は1歳7カ月齢のミニチュア・ダックスフンドの避妊メス。尿失禁を主訴にCT検査のため来院した。一般状態良好、実施済のCBC、血液生化学検査、腹部X線検査、腹部超音波検査、身体検査でも著変を認めなかった。プロポフォールで麻酔導入、気管挿管後、酸素、イソフルラン、一回換気量15ml/kg、気道内圧10cmH<sub>2</sub>O、10回/分陽圧換気、乳酸リンゲルCRIで麻酔維持し、単純撮影+IOX 600mg/kg 0.3ml/s 静脈投与、投与開始より40、60秒、5、10、15、20分撮像を計画した。T6、T7椎体前縁の右後葉、副葉、左後葉の6箇所気管支直径を測定した。t検定を用い、 $p < 0.05$ を有意水準とした。

3. 結果：IOX投与60秒後撮影後の陽圧換気再開時に気道内圧上昇を認め、人工呼吸器で管理困難となった。手動換気にて20mmH<sub>2</sub>O以上の気道内圧で胸郭の動きとETCO<sub>2</sub>波形が観察された。SpO<sub>2</sub>は90%以上維持も血圧測定および股動

脈触知が不可能となり、エフェドリン投与した。気道内圧上昇、血圧測定不能に続き頻脈が認められ、麻酔を中止した。経過および9分後撮影の胆嚢壁浮腫よりアナフィラキシーとして、アドレナリン0.001mg/kg IV、輸液20ml/kg/h、ジフェンヒドラミン、ラニチジン、デキサメタゾン投与した。薬剤投与後1分以内に気道内圧低下を認め、人工呼吸器による呼吸管理可能、血圧回復を認めた。気管支直径はIOX投与60秒後(19.2 ± 19.5%)以降有意な狭窄を認め、5分後(9.2 ± 16.1%)で最大狭窄となり、9分後(28.2 ± 8.6%)、15分後(68.2 ± 20.5%)、20分後(60.5 ± 16.2%)と推移した。覚醒時下血を認め、覚醒後ALT上昇、Fib低値、PT、APTT延長、血液濃縮を認めた。症例は支持療法にて12時間後には麻酔前と同様な状態に回復した。

4. 考察および結語：気管支径は60秒後に有意な狭窄を認め、引き続き気道内圧上昇などを認めたことから、気管支狭窄はアナフィラキシー発生の迅速な判断所見でありその兆候に迅速かつ適切な対処が必要と考えられる。